

信濃川水系河川整備計画骨子概要(千曲川)

【資料-2】

◆頻発する水害に対応した河川整備



昭和58年（1983）9月洪水

平成18年（2006）7月洪水

千曲川では、観測史上最大となった昭和58年9月洪水で、飯山市の3箇所で破堤し、家屋全半壊等の甚大な被害が発生しました。

また、観測史上二番目となる平成18年7月洪水の際にも、家屋浸水被害や堤防漏水・基盤漏水、河岸欠壊が発生しています。

今後30年間で戦後に発生した洪水に対する安全性の向上を図ります。

◆上下流バランスのとれた治水安全度の向上

水系全体でバランスのとれた治水対策の推進

信濃川水系では、極めて流路延長が長いため、上下流の治水バランスを確保しつつ、段階的かつ着実に治水安全度の低い箇所の整備を進めることが重要です。

整備の実施にあたっては、県境区間等の関係する河川管理者との連携・調整を図りつつ水系全体としてバランスのとれた治水対策を推進します。



浸水状況写真



立ヶ花狭窄部上流のせき上げ状況
平成18年（2006）7月洪水

◆危機管理体制の強化と地域防災への支援

防災情報伝達の迅速化 ~千曲川総合防災管理システムネットワーク~

水防活動や警戒避難活動の迅速な対応を支援するため、雨量水位、洪水予測、河川カメラ画像、水防警報等の防災情報を、千曲川総合防災管理システムネットワークにより、市町村等へ速やかに伝達します。



あの水害は忘れない! ~街全体がハザードマップに~

災害時に住民自ら避難活動をしていただくため、水害の危険等の啓発や対策、市町村が整備する洪水情報地図、まるごとまちごとハザードマップの支援等を行います。

~内水被害の発生~ 排水ポンプ車出動

排水ポンプ車等の災害対策車を積極的に活用し、地域の安全を確保するよう対応していきます。

◆河川整備による自然環境の向上

河道掘削による千曲川らしい河川環境を再生

千曲川等の高水敷には、アレチウリ、ハリエンジュ等の外来種が侵入・拡大し、河原特有の植物が減少しています。

自然豊かな千曲川等の河川環境の再生を図るため、洪水時の冠水頻度を高め、ヨシ・ヤナギをはじめとする水際植生などの形成を目指します。



樹木を覆いつくすアレチウリ



河道掘削後の水際に在来植物が生育

◆利水環境

ゆたかな水量をほこり、 地域に貢献する千曲川の水

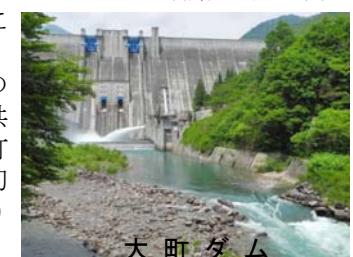
千曲川の豊富な水量と急峻な地形を利用し、約90箇所の発電所で発電が行われ、かんがい用水として県内約3.3万haに及ぶ耕地に潤いを与えてています。

水道用水は長野市、上田市、中野市等に供給され、沿川の大重要な飲料水として利用されています。

安定的な水の供給のために

平成6年に発生した渇水では、大町ダムから不特定用水や水道用水の補給を行い渇水被害の軽減に寄与しました。

今後も地域の安定した水の供給のため、大町ダム管理を適切に行ってまいります。



大町ダム